博士論文要旨

アジアの英語教育産業が形づくるトランスナショナルな移動
――メゾ構造としてのフィリピンの韓国系英語学校を中心に

立命館大学大学院国際関係研究科
国際関係学専攻博士課程後期課程
イ　ジョンウン
LEE Jung Eun

本研究は、国際移動研究の射程から、アジアの英語教育産業がどのようにトランスナショナルな移動を形づくっているか明らかにするものである。国際移動研究におけるメゾ構造が、留学生移動をどのように動機づけ、水路づけながら、また受け入れ国とその人々に影響を与えているか明らかにする。これを通して、英語とアジアの資本主義が織りなす重層的でダイナミックな、アジアの国際移動の一面を考察することができると考える。

留学は現代の国際移動を代表する移動の類型の一つである。その中で、アジア諸国は、多くの留学生を輩出する留学生の送り出し地域としてみなされてきた。ところが、2000年以降アジアは新しい留学先として注目を集めるようになり、アジア域内の留学生移動もますます増加している。

国際移動研究においてフィリピンは、国際労働力の送り出し国として知られながら、現在アジアで最も人気のある英語留学先でもある。フィリピンで英語を学ぶ外国人留学生が主に在籍しているのは、韓国人移住企業家のつくった民間の韓国系英語学校（以下、英語学校）である。また、フィリピンの英語学校は既存の英語学校とは異なる、「マンツーマン授業」や「全寮制」、「スパルタ・システム」をもつことで知られている。本研究はこの英語学校をメゾ構造として位置づけ、学校がどのように形成され、留学生、とりわけフィリピンに最も多い韓国人留学生のトランスナショナルな移動を形づくっているか考察する。

現在のフィリピンの英語学校につながる初めての英語学校は、1991年マニラ近くのカビテ州に建てられた。フィリピンの英語学校にとって転機になったのは、1990年代半ば以降、韓国の政治経済構造の再編により、知識を基盤にする産業への移行が加速し、英語教育の要請が高まったことである。英語学校は、韓国の民間教育産業の手法を取り入れながら、留学移動のコストとリスクを削減し、英語学習の効率化を図るシステムを構築した。次第にフィリピンの英語学校が韓国で人気を呼び、2010年以降は日本と台湾、ベトナム、中東諸国からも多くの留学生がやってくるようになった。また、英語学校は欧米諸国の短期移住政策と接続することによって、若者たちのトランスナショナルな移動を促進するようになった。

次は、留学生たちの視点から、なぜ留学生たちがフィリピン英語留学を選んでいるか、留学生とのインタビューにもとづき考察した。留学生たちは、限られた経済資本と英語力、学歴資本などを、フィリピンの英語学校の独自なシステムを通して、短期間に効率よく英語および自信と経験を獲得するために、フィリピン英語留学を選んでいた。留学生たちはそれを通して、韓国の雇用市場で優位になるだけでなく、次の移住先で新しいキャリアやライフスタイルの実現を夢見ていた。しかし、教育の選択の機会の拡大は、教育にかかるコストと結果への責任を家族に押し付け、とくに母親の役割を「教育のマネージャー」として強化している。

さらに、本研究はメゾ構造としての英語学校が、受け入れ国の人々に与える影響を考察するために、フィリピン人英語講師の職業移動を考察した。近年フィリピンでは英語圏の欧米企業のコールセンターがフィリピン国内に多数配置され、大卒で英語力の高いフィリピン人の若い労働力を引きつけている。高い給料とモダンなイメージは、若者を引きつける理由である。一方で、英語学校では、コールセンターから英語学校への顕著な職業移動が見られており、その理由は給料が低くても、異文化に触れられることや、ストレスが少ない仕事であることが挙げられた。英語学校の経営者たちもアメリカ企業のコールセンターで働いた若者たちを積極的に雇用することで、人材育成に必要な時間とコストを減らそうとしている。他方で、英語講師は給与が低く福利厚生も不安定であり、かつ英語講師の仕事はキャリアになりにくい。このようなフィリピン人英語講師の労働力を脆弱にする条件が、英語学校のコストパーフォマンスの高さを維持できる側面でもあると考えられる。

最後に、本研究は国際移動研究において、どのような寄与ができたのだろうか。

一つ目は、メゾ構造の視点から「フィリピンの英語学校」に注目することで、研究対象のナショナリティやエスニシティを自然化することなく、一つのメゾ構造を通して、さまざまな出自・背景を持つ人びとの移動が交差する状況を明らかにすることができたことである。

もう一つは、英語とアジアの資本主義が織りなす、重層的でダイナミックな国際移動を示すことができた点である。代表的な労働力の送り出し国でもあるフィリピンで新たな国際移動の受け入れの現象が見られるということは、先行研究で指摘されたような、経済発展と賃金上昇による受け入れ国への転換の過程であるとは考えにくい。本研究で見られる重層的でダイナミックな移動を仕掛けているのは非経済的要因である英語教育とそれを実践する英語学校である。すなわち、グローバル化する世界における国家の戦略と、企業の狙いが、韓国人留学生たちの欲望とフィリピン人若者たちの新しい仕事観などが、韓国人によってつくられた効率性を高めたフィリピンの英語学校を舞台に繰り広げられる、ダイナミックな国際移動を示すことができた。